



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



大笹牧場ハイキング(5月)にて

発達障がい支援、この地域でできること

相談窓口としての「発達障がい支援者連絡会」

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、「悪者探しはせず、今できることに取り組んでいく」ための集まりが9月で8回目になりました。親、教師、それぞれの立場での意見や悩み、助言などの意見交換が行われています。

この会議が始まって間もない頃、身近な相談窓口が欲しい、という親の側からの要望が多く出されました。しかし、他の市町村と同じようなものを望んでも時間がかかるし、現実的ではないということが段々とわかってきました。子どもたちは、今、困っているのです。

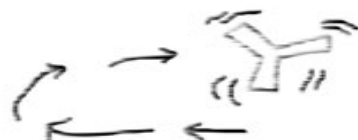
会を重ねていくうちに、会議の中で徐々に質問や相談が出始めました。相談するのも、されるのも、アドバイザー、親、先生、NPO関係者、行政関係者というそれぞれ違う立場の人達です。この立場を、使ったり超えたりしながら対等に話ができている現状があります。まさしく「身近な相談窓口」ではないでしょうか。相談者はその中で出た、いろいろな意見の中から自分に合うものを選択すればいいのです。現場で動いている人達が集まっているというのも心強いことの一つです。

発達障がいというテーマをテーブルに置き、それを囲んで対等に話し合いができるという場はとても貴重な場であるので、これからも大切にしていくとともにしっかりとした相談窓口をつくっていく足がかりになるのではないかと期待しています。

(西尾)

「発達障がい支援者連絡会」は毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開催されています。他地域の先進的な取り組みやイベントの紹介もあります。話し合いの中から、地域のおとなが中学校に出向き、子どもたちと交流するボランティアが実現しました。どなたでも参加自由の会です。気軽にお出かけください。11月の「つくって遊ぼう!!」もこの連絡会から提案された交流イベントです。

連絡先：日光市民活動支援センター（電話：0288-22-2271）



つくって遊ぼう!! ブーメラン・紙トンボ

11月4日(土) 午後1時より 今市小学校講堂

目次：

発達障がい、この地域で...	1
家族療法研究会	2
イベント情報	2
活動日誌	3
ラジオ生出演体験記	3
サイエンス・カフェ報告	4
活動目的・入会のお願い	4

居場所のひとつ

5月30日。子どもたちとなんにわスタッフでが市内のボーリング場でボーリングをしました。スタッフより子どもたちのほうがうまいかも!?

5、6月にさつまいも・かぼちゃの苗植え。収穫が楽しみです。

いつの間にか報徳会館にも秋の気配が。秋の植物観察会は?



9月の「家族療法研修会」に参加して

9月19日(火) 18時30分より、鹿沼市民情報センターにおいて行われた研修会に参加しました。スクールカウンセラーの松本順先生を講師に迎えて、毎月第3火曜日に行われている研修会だそうです。

参加者は松本先生の他に鹿沼北中の福田由美先生、保護者5名でした。鹿沼市は保護者の会に学校の先生やスクールカウンセラーの先生と一緒に参加して話し合う研修会が多くあるようです。参加してみて一番強く思ったことは、講師の先生も一般の保護者も、ある意味対等な関係で話し合いが進められていることでした。

初めに保護者の皆さんが自分のお子さんの現状報告や問題点などを出していました。松本先生からは「選択理論」というお話と「親を攻撃する子どもたち」というお話がありました。選択理論心理学によると、「人間のすべての行動は、内側にある強力な力(欲求)によって動機づけられている」のであって、外的コントロールによる心理学とは全く異なる考え方のようです。その中で紹介された「7つの致命的習慣」と「身につけたい7つの習慣」が心に残りましたので、以下に示します。

7つの致命的習慣

批判する	責める	文句を言う
ガミガミ言う	脅す	罰する
褒美で釣る		

身につけたい7つの習慣

受け入れる	励ます	傾聴する
支援する	信頼する	
違いを交渉する	尊敬する	

家族療法とは・・・

家族療法は、家族集団を研究と治療の単位として扱い、個人の問題を家族という脈絡の中で捉えようとする。治療の焦点を個人のみ当てるだけでなく、家族集団の中でその個人を捉えなおし、そこにある対人関係のプロセスに注目する。

治療にあたっては、まず、現在顕在化している問題が、その家族集団の中でどのように関連して起こっているのかを見出し、それに基づいて、家族成員がどのような形で実際に治療に参加できるかを知らなければならない。その後、一般的には問題行動をもつ個人を含め、治療参加者全員に、治療における目標、期待を聞いていく。そして家族成員で合意の得られた治療目標を定めた上で、それぞれの治療戦略に基づいて介入を行っていく。

(白井)

イベント情報

PAY IT FORWARD 2006

ワカモノ・フェスタ

～ Dream On Dream ～

11月25日 午前9時～午後8時

とちぎ青少年センター(アミークス)

不登校している人や、こもっているみんな、それに今悩んでいる真っ最中の子どもやワカモノ達が、自由に気楽に1日楽しめるイベント！ライブステージ、プレイスペース、アートパネル、シンポジウムなど盛りだくさん！

<http://wakaf11.no.land.to/>



なんにわ サイエンスカフェ 第4回

楽しい理科実験・空気と水

講師: 湯澤光男さん
(宇都宮市立若松原中学校教諭・理科)

なんにわサイエンス・カフェ。第4回は「楽しい理科実験」の開発を行い、授業で実践されている湯澤さんが再登場です。今回のテーマは「空気と水」。小学生にもわかり、大人も楽しめる会です。事前の申し込みをお願いします。

日時: 2006年10月14日(土)
午後1時30分～3時30分
場所: 日光市民活動支援センター
主催: NPO法人 なんとなんかのひろば
後援: 日光市教育委員会
参加費: 300円(お茶、お菓子代)

「みんな、むかしばなしを聞きながらおおきくなった。
おともだちをさそって、聞きに来てください。」

むかしばなし玉手箱

おはなしするひと:

大沢にすむ、むかしがたりのおじいさん はなおか ひろし さん

おはなしの内容は当日のお・た・の・し・み

参加費用は、ありません。

ほうとくいまいちしんこうかいかん

10月7日(土) 午後1時30分～2時30分 報徳今市振興会館

活動報告(5月～9月)

- 5月20日(土) 大笹牧場ハイキング(主催・NPO雑草)に参加
- 5月21日(日) 通信・なんとなくのひろば 第5号発行
- 5月22日(月) 発達障がい支援者連絡会(第4回)
- 5月26日(金) 今市中学校で打ち合わせ(西尾、白井、手塚)
- 6月1日(木) 金田教育長との話し合い(西尾、手塚)市教委
- 6月3日(土) 自閉症とは(よりよい関わりのための姿勢・視点)
社会福祉法人 横浜やまびこの里 篁一誠さん講演会に参加(西尾)
- 6月4日(日) 第1回 なんにわ サイエンス・カフェ
講師: 田原博人さん(前宇都宮大学学長)
- 6月4日(日) 鹿沼スクラムネット「子どもの心はこう育つ(2)」
発達課題をふまえた関わりを 井澤 真智子さん講演会に参加(西尾)
- 6月14日(水) 日光市校長会で活動を紹介(手塚、白井、吉成)
- 6月17日(土) ゆずりは 軽度発達障がいセミナー 2006
私の場合(読むのは苦手だけれど) 神山忠さん講演会に参加(西尾)
- 6月20日(火) かぼちゃ植え(居場所の子どもたちが参加)
- 6月24日(土) ワカモノフェスタ実行委員会参加
- 6月25日(日) ベリー会(宇都宮・福祉プラザ)に参加(吉成)
- 6月26日(月) 発達障がい支援者連絡会(第5回)
- 6月27日(火) ボーリング(報徳会館から徒歩で往復)
- 7月1日(土) 第2回 なんにわ サイエンス・カフェ
講師: 湯澤光男さん(若松原中学校教諭)
- 7月1日(土) 第10回 理事会
- 7月15日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(沼尾)
- 7月16日(日) バーベキュー会
(居場所利用者とその親、スタッフが交流した)
- 7月21日(金) 発達障がい支援者連絡会(第6回)
- 7月30日(土) ベリー会(宇都宮)に参加(沼尾)
- 8月1日(火) 今市花火鑑賞会(まにまに工房にて)
- 8月10日(木) ワカモノ・フェスタ実行委員会(沼尾、加藤)
- 8月16日(水)～8月21日(月)
あさやホテルでの「きぬ サイエンス・パーク」に参加
- 8月20日(日) 第3回 なんにわ サイエンス・カフェ
講師: 北本俊二さん(立教大学教授)
- 8月26日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(沼尾)
- 8月27日(日) ベリー会(宇都宮)に参加(吉成)
- 8月28日(月) 発達障がい支援者連絡会(第7回)
- 8月31日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会(加藤)
- 9月2日(土) 第11回 理事会
- 9月17日(日) ベリー会(宇都宮)に参加(吉成)
- 9月19日(火) 家族療法研修会(白井)2ページ参照
- 9月23日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(沼尾)
- 9月25日(月) 発達障がい支援者連絡会(第8回)

ラジオ生出演体験記

6月にラジオで話す機会がありました。NHK宇都宮FM「とちぎ6時です!」というローカル番組です。「子どもの居場所」と「サイエンス・カフェ」の活動について話してほしいという依頼を受け、出てみることにしました。当日午後、西尾さん、居場所のスタッフYくんの3人で宇都宮へ。

スタジオは駅前通りに面したコンパクトな作りで、担当の女性がふたりと、責任者らしき男性が準備をしていました。道路に面したショーウィンドウの内側にテーブルがあります。水族館の水槽から外を見るとこんな感じかと金魚になったような気分で、とりあえずお茶をいただく。マイクをセットしてもらってスタンバイ。午後6時のスタートまでちょっと時間があり、その間に、全体の流れと話のテーマについて簡単に打ち合わせをしました。

そうこうしているうちに午後6時の開始時間。リポーターのHさんは「自分の思いを話してください」という対応で、自然に話ができたと感じるような気がします。西尾さんは「居場所」への思いを、私は「カフェ」のねらいを、分担して話しました。音楽とトークが半々で、音楽が流れる間のちょっとしたやりとりが、次の話題につながります。同じことを2回しゃべるわけで、ふつうの会話としては変なのですが、そこは番組制作のプロ。Hさんは、初めて聞いたような受け答えをしてくれます。なるほど、トーク番組というのはこういう技術でできているのだと妙なところで感心しているうちに、あっという間の45分が過ぎました。

夕方6時、どれくらい、どんな人たちが番組を聞いていたのでしょうか。番組が作られている現場に参加するという、とても興味深い体験でした。(手塚)

新聞報道・その他

- 6月30日(金)
下野新聞 日光・県北欄
「科学の面白さ 身近に」
(「サイエンス・カフェ」の紹介記事)
- 7月11日(火)
NHK宇都宮FM「とちぎ6時です!」
居場所とカフェを紹介

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

毎週火、金曜日、報徳今市振興会館で「子どもの居場所」を開設しています。不登校の子ども達が、家にこもらず外へ目をむけて、遊びに来れるような場所です。子育て相談も開設しています。見学自由、お気軽におでかけください。



「サイエンス・カフェ」 1 ~ 3

前ページの活動報告にもあるとおり、6~8月に3回開催しました。第1回:田原博人さんは電波天文学が始まった時期の思い出話を通じ、科学者がどんな思いで研究を始め、進めていくかという過程を話してくれました。天文研究の体制は? 宇宙の大きさは? など質問も多数あり、宇宙談義に花が咲きました。第2回:湯澤光男さん



第1回:「宇宙の話」

「自由電子が見えたなら」は講師の質問に参加者が答えていくという形式の授業でした。回答者の発想がさまざま。湯澤さんがそれをうまく受け止めて、話を進めていきます。子どもから大人まで楽しめる会になりました。次回は「空気と水」というテーマで湯澤さん2度目の「仮説実験授業」があります(詳しくは2ページ)。ぜひご参加下さい。

8月に鬼怒川温泉のあさやホテルで「きぬ サイエンス・パーク」という新企画があり、なんとなくのになわメンバーがスタッフとして協力。第3回の

第2回:「自由電子が見えたなら」

「ブラックホールって何?」はあさやホテルと共同開催になりました。このような地元企業との連携は私たちにとって初めてのことで、貴重な経験でした。この「サイエンス・カフェ」、新しい日光市に定着させていきたいと考えています。運営等にも興味のある方、どうぞご連絡下さい。(手塚)



なんとなくのへや

第3回の「サイエンス・カフェ」はブラックホールを研究する北本俊二さん(立教大)にお話ししていただきました。ブラックホールは光も吸い込んでしまうので、直接「見る」ことはできません。では、どうやって調べるのでしょうか。ブラックホールは、強い重力で宇宙に広がるガスや塵などを吸い込みます。もし周囲に物質があれば、それらは急激に加速され、X線を放射します。そのX線を調べるとブラックホールの性質がわかるのです。宇宙からのX線は大気層のため、地上には届きません。そこで人工衛星に載せたX線カメラなど最新技術を開発しながら研究を進めるのです。それは私たちが「見る」という言葉からイメージするものとはずいぶんちがっています。それでも科学者は、「見る」という言葉を好むように感じます。人間の五感を超えた装置を駆使した科学実験に使われる「見る」という言葉。それは「測定は人間の行為である」という、当たり前すぎて、つい忘れてしまいそうな事実を繋ぎ止めておく「もやい」のようなものなのかもしれません。(T)

私たちの活動目的:

今市市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業:

子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

教育についての相談や情報提供活動
学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動

自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

現在の会員数

正会員 32
賛助会員 10
団体会員 3

入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円
賛助会員 個人 5,000円
 団体 10,000円

会員の継続をよろしくお願いします。

私たちの会を紹介する文が、ホームページにあります(アドレスは1ページ左上)。もし、通信などの空きスペースがありましたら、私たちの会の紹介文を載せてください。



「ブラックホールって何?」のひとつ